

ネット上のいじめへの対応

・未然防止

・いじめの把握

・把握後の対応

未然防止 (すべての教職員が取り組む)

◆情報教育の充実

- ・教職員の情報モラル指導力の向上
- ・生徒にネットリスク回避能力を身に付けさせる
- ・生徒の意識を高くもたせる（犯罪行為になることを自覚させる）
- ・「工業情報数理」を中心に全ての教科で情報モラル教育を実施

◆ネット社会についての講話（防犯）の実施

◆学校内での携帯電話の使用禁止

◆保護者への啓発と家庭・地域との連携

- ・保護者の理解を得る取組の充実（フィルタリングの設定）
- ・家庭におけるルールづくり

ネットいじめの相談窓口→担任

ネットいじめが発生した場合、まず担任・保護者へ相談するよう日頃から生徒に意識づけをおこなうこと

ネットいじめの把握

(ネットの特性上大人の目の届かないところで起こる)

- ・被害者からの訴え
- ・閲覧者からの情報
- ・教職員の観察からの気づき

いじめの内容（例）

誹謗中傷・なりすまし・特定の生徒の個人情報掲載など、匿名性が高いことから安易に誹謗中傷が行われるため、被害が深刻なものとなり簡単に被害者にも加害者にもなりやすい。場合によっては犯罪行為となる場合もある。

ネットいじめ把握後の対応流れ図

ネットいじめが
発生した場合
学校・保護者に相談

学校へ報告
いじめ発見・確認
状況確認
なりすましの場合もあるので慎重に調査
教頭へ報告

書き込み内容確認
複数の教員で対応
・URL記録
・通信ログを記録
・画面のコピー
・書き込みの印刷等

プリントが困難な場合
デジカメで撮影すること

管理人へ削除依頼
・携帯電話会社
・掲示板管理会員
・プロバイダー等

X、TikTok、インスタグラムなど海外法人が運営しているサイトは、送信防止措置依頼をしても削除に応じてくれない可能性が高く、削除を求めて訴訟を起こすしかないこともある。

報告

犯罪行為

指導

いじめへの対応
いじめ問題対策委員会
・生徒の心のケア
・カウンセリング
・保護者等へ説明

教育委員会に報告
教育指導課
子ども安全支援室
人権同和教育課

削除されない場合
内容が深刻な場合
被害届で警察は捜査可能
法務局 地方法務局など